

平成 22 年度魅力ある学校づくり推進事業計画書

1 取り組むテーマ（目指す学校作り）
「生徒と教師がともに学びあう楽校」

2 テーマ設定の背景、現状

本校は、本年度学級数 18 学級（特別支援学級を含む）、生徒数 607 名、教職員数 38 名の中学校である。

学校教育目標として「自立心のある、心豊かな生徒の育成」を掲げ、授業・学校行事・部活動等の体験を通して、「感動・感謝」する心の育成に努めている。昨年度「学力向上」を重点目標に掲げ、本事業を活用し、生徒が教師とともに意欲的に学習に取り組むための授業のあり方（「学び合い学習」等）、長期休業中・放課後等で地域人材を活用した補充指導や、家庭学習の充実に向けた研究及び実践を積極的に推進してきた。その成果として学校評価や定期テスト、授業での生徒の様子から着実な進歩がみられる。そこで本年度も本事業を継続し、推進していけばより確かな、より精練された研究と実践が期待できると考える。昨年度推進してきたことを、さらに発展・深化していく事業を意図的・計画的に進めながら、生徒の更なる「学力の向上」につなげたい。

3 取り組むテーマの成果指標及び目標

成果指標	学習状況調査において、各教科正答率を約 3 ポイント上げる。 生徒とともに学びあう授業実践の定着 家庭学習の時間を 30 分延ばす。 長期休業や放課後等で補充学習を実施する。
成果指標の目標	（現状） （目標） 県学習状況調査で県平均に対して（平成 21 年度調査との比較） 2 年生：4 教科平均 5.5 低い 平均で 2 ポイント上げる 3 年生：5 教科平均 0.5 低い 平均で県平均より 2 ポイント上回る グループ学習に取り組んでいるが十分とは言えない。「学び合い」 「支え合い」の協同的な学習形態をグレードアップし、本校独自の学習形態の確立を目指す。 家庭学習の時間を確保するため、保護者と協力して取り組む。
	（目標の根拠） 今年度の調査結果から、学年の実態に応じて県平均に迫りたい。 今年度、他県や教育センターより講師を招聘し、「学びの共同体」による学習展開の研究を深めたい。さらに全教科でその実践を広げ、更に意図的・効果的な学習活動を確立したい。 長期休業中に地域人材を活用した補充学習（サマースクール）を開催したが、放課後の補充学習も取り入れて、地域・学校・家庭が一体となるような学校づくりを目指したい。

4 事業期間

平成 22 年 4 月～平成 23 年 3 月（1 年間）

5 実施内容

（1）協議・検討のための会議等の設置

主な構成等	人員数	開催予定回数
学力向上委員会	20 名	全体会 2 回
授業改善委員会（指導方法の協議）	（ 8 名）	部会 2 回
地域連携委員会（補充学習充実のための協議）	（ 12 名）	部会 2 回
構成員：佐城教育事務所指導主事、小城市教育委員会 指導主事、育友会代表者、本校教職員		

(2) 予定している主な調査・研究活動

『本校の「学び合い学習」』を視野に入れた「学級づくり」「授業展開」のあり方についての研究

「学び合い学習」の先進校視察及び講師を招聘した職員の研修

家庭学習の定着と充実に向けた課題の内容精選及び実態把握と保護者との連携のあり方

地域人材を活用した補充指導等の講師の人材リストの精選と更新。

学校評価における本事業の生徒・教師・保護者からの評価及び意見集約

(3) その他、当事業において実施する事項

佐賀大学と連携した補充学習指導

保護者向けの講演会の開催